

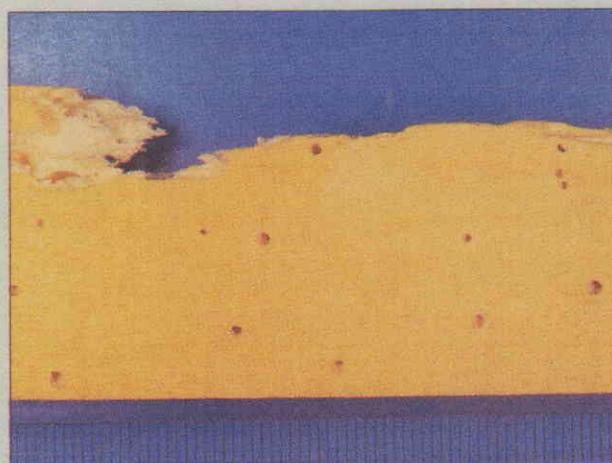
ラワン材などに穴をあける ヒラタキクイムシ

東京の
生活害虫

8



●ヒラタキクイムシ成虫(体長約3~6mm)



●被害を受けた集成材



●ラワン材の脱出孔

ラワン材などの表面に粉がこぼれ、小さな穴があくことがあります。これはヒラタキクイムシなどの仕業です。

形態と被害

成虫は細長く平たい甲虫です。体長には幅があり、3~6mmほどで、赤褐色をしています。幼虫は白いウジ状でC字型をしています。

成虫が木材の表面に産卵し、幼虫が木材の内部を食害します。春から初夏にかけて、木材の表面に穴をあけて成虫が脱出すると、そこにきな粉のような粉がこぼれます。

最も被害を受けやすいのはラワン材ですが、ナラやキリなどの広葉樹材が被害を受けることもあります。わりあい新しい家屋や家具で、被害が多くみられます。

防除

木材に塗料やニスなどが塗ってあれば、普通は成虫が産卵できません。被害を受けた木材や周辺の木材が生地のままなら、表面を塗装しておきます。成虫そのものは、家庭用のスプレー式殺虫剤で駆除できます。